

令和元年度事業報告

I 事業実施総括

一般社団法人十和田奥入瀬観光機構（以下「当機構」という）は、従来の十和田市観光協会が行ってきた業務と、十和田湖国立公園協会が行ってきた観光に関する業務を引き継ぎ、十和田奥入瀬地域の観光振興を一体的に担う日本版 DMO 候補法人として、平成 31 年 3 月に新たなスタートを切った。

戦略的観光地域づくり推進事業では、6 つの基本戦略（戦略 1：観光資源の活用、戦略 2：地域産業の好循環促進、戦略 3：インバウンド対策、戦略 4：情報発信・プロモーション、戦略 5：食と地産品、戦略 6：人材育成、組織連携）を策定し、KPI を設定して事業に取り組んできた結果、令和 2 年 1 月に観光庁から活動が認められ、日本版 DMO に正式登録された。

戦略 1 観光資源の活用については、東北観光推進機構の着地型コンテンツプラットフォーム構築・情報発信事業（欧米豪をはじめとするインバウンド向け WEB サイトに掲載）に十和田独自の魅力的な観光コンテンツ計 7 コンテンツを推薦し、東北 51 コンテンツのうち、6 コンテンツが選定された。

また、十和田湖温泉郷が地域の事業者や住民の総意を得て、令和 2 年 4 月 1 日から奥入瀬溪流温泉に名称変更することを決定したことに伴い、メディアへの PR 活動や『奥入瀬コケ弁当』の開発にも取り組んだ。

戦略 2 地域産業の好循環促進については、ストリートピアノの設置や各種マップ類（『バラ焼きマップ』『酒場放浪マップ』ほか）を制作・配布により、十和田市現代美術館の来館者を街なかへ回遊する仕掛けづくりを行った。

戦略 3 および**戦略 4** インバウンド対策と情報発信・プロモーションについては、外国人観光客誘致のため、韓国・台湾・スペインでの旅行博覧会や商談会へ参加し、当地域観光のプロモーションを行った。

戦略 5 食と地産品については、つがる市で開催された「あおもり十市大祭典」や大宮駅構内で開催された「青森とわだ産直市」に出店し、当地域の物産品の紹介と販売を行った。

戦略 6 人材育成、組織連携については、「とわだ旅向上座談会」の開催やハラルセミナー、MaaS (Mobility as a Service) セミナーを開催し、地域事業者の意識の底上げを行った。

これら戦略に基づき、DMO として上記に掲げる事業を行ってきたほか、イベント関係事業、観光関連施設（十和田市観光物産交流施設及び十和田湖観光交流センターぶらっと）の指定管理運営業務、物産関係事業等を行った。

会員や地域を支える多様な関係者と協働し、来訪者のニーズに沿った事業展開を進め、地域の「稼ぐ力」を引き出していくことに努めた。

II 戦略に基づく事業の実施状況

1 戦略的観光地域づくり推進事業

(1) マーケティング事業 **戦略 1** ※資料「2019 年度 KPI 実績報告」参照

各種データ等の継続的な収集を行い、専門家を交え様々な角度から分析をすることで、十和田奥入瀬観光の持続的な観光戦略を構築していく。

① 宿泊旅行統計調査

宿泊旅行の実態を把握するため、宿泊施設から月別の延べ宿泊者数と外国人延べ宿泊者数を提供いただき、継続的な収集を行っている。市や県が発表する統計と観光庁による宿泊旅行統計調査の結果と比較するなど、多角的な検証を行った。

② 来訪者アンケート調査

旅行者の動態を調査する目的で、DMO設立を念頭とした 2018 年から来訪客への対面式アンケート調査を実施している。夏・秋・冬に市街地・奥入瀬・十和田湖の 3 地点で、日本人・訪日外国人旅行者を対象とした調査を実施した。

③ ウェブサイトのアクセス解析

ウェブサイトのアクセス状況を集計し、サイト訪問者の利用状況や傾向を分析することで、目的に合った情報が提供されているかを確認し、テーマや内容を決めて情報発信を行った。

(2) 販路拡大・プロモーション事業 **戦略 4**

十和田湖・奥入瀬＋十和田市街地の十和田ブランドを、周辺地域の魅力も併せ、点ではなく面としての販路拡大・プロモーション展開を図る。

① キャッチコピー及びロゴマーク制作

移住クリエイターらとともに、「こもる、水辺の書斎～十和田で何もしないをする」のキャッチコピーとロゴマークを作成した。十和田湖畔や奥入瀬、まちなかで過ごす上質な時間をロングステイにつなげていくことを狙い、当地域が目指す観光地像を表現・確立した。

【キャッチコピー】

こもる、水辺の書斎
十和田で何もしないをする

【ロゴマーク】



② ウェブサイト運営

ウェブサイトでは、スマートフォンの利用率が高い外国人観光客のニーズに対応するため、移住外国人クリエイターによる欧米豪向けのレイアウトでウェブサイトを制作した。このウェブサイトは、前項のキャッチコピーによる観光地イメージを前面に打ち出したものとした。十和田奥入瀬地域への入込数が多い台湾人向けに繁体字や英語ページも開設。各コンテンツへの誘導を整理して、サイト訪問者の回遊性を向上させることに努めた。



③ パンフレット制作

総合観光パンフレット「とわだ旅」は、まちなか編・奥入瀬編・十和田湖編の3冊に分かれていたが、旅ナカ冊子として旅行者の利便性を向上させるため、3つのエリアを一冊に統合し、日本語版、多言語版（英語・繁体字・簡体字・韓国語）を制作した。

【総合観光パンフレット とわだ旅】



【とわだ旅 ダイジェスト版】



④ 広報（メディア掲載実績）

十和田の魅力を届けるため、テレビや雑誌、ガイドブックに情報や写真素材の提供を行った。当機構の取組やイベントについても各種メディアの協力を得て情報発信に努めた。

■2019 年度メディア掲載件数

- ・十和田奥入瀬観光機構掲載記事・・・60件（新聞、テレビ）
- ・イベント・行事掲載記事・・・53件（新聞）
- ・雑誌・Web・パンフレット掲載記事・・・62件
- ・写真素材提供・・・59件（イベントや観光スポットなど）

令和元年度十和田奥入瀬観光機構掲載リスト

No.	媒体	エリア	発行日	媒体名	内容
1	新聞	地元	2019年3月30日	東奥日報	DMO候補法人登録
2	テレビ	地元	2019年4月1日	R A B	DMO始動
3	新聞	地元	2019年4月2日	東奥日報	DMO始動
4	新聞	地元	2019年4月2日	デーリー東北	DMO始動
5	新聞	地元	2019年4月6日	東奥日報	星野リゾート入社式
6	新聞	地元	2019年4月6日	デーリー東北	星野リゾート入社式
7	新聞	地元	2019年4月12日	デーリー東北	鳶沼シャトルバス検討
8	新聞	地元	2019年4月12日	東奥日報	鳶沼シャトルバス検討
9	新聞	地元	2019年4月20日	デーリー東北	十和田市春まつり
10	新聞	地元	2019年4月24日	デーリー東北	DMO候補法人登録
11	新聞	地元	2019年5月31日	デーリー東北	DMO中間経営計画
12	新聞	地元	2019年5月31日	東奥日報	DMO総会
13	新聞	地元	2019年7月2日	デーリー東北	機構ウェブ開設
14	新聞	地元	2019年7月8日	デーリー東北	三農 観光スマート農業
15	新聞	地元	2019年7月8日	東奥日報	三農 観光スマート農業
16	新聞	地元	2019年7月8日	東奥日報	十和田湖ウォーク
17	新聞	地元	2019年7月14日	東奥日報	湖水まつりツアー
18	テレビ	地元	2019年7月22日	R A B	十和田湖温泉郷改名
19	テレビ	地元	2019年7月22日	A T V	十和田湖温泉郷改名
20	新聞	地元	2019年7月22日	東奥日報	十和田湖ウォーク
21	新聞	地元	2019年7月30日	東奥日報	十和田湖温泉郷改名
22	新聞	地元	2019年7月30日	県南新聞	十和田湖温泉郷改名
23	新聞	地元	2019年7月30日	東奥日報	花火大会有料観覧席
24	テレビ	地元	2019年8月7日	東奥日報	ストリートピアノ設置
25	新聞	地元	2019年8月8日	R A B	ストリートピアノ設置
26	新聞	地元	2019年8月11日	デーリー東北	ストリートピアノ設置
27	新聞	地元	2019年8月12日	デーリー東北	十和田湖温泉郷改名
28	新聞	地元	2019年8月14日	河北新報	ストリートピアノ設置
29	新聞	地元	2019年8月17日	東奥日報	夏まつり花火大会
30	新聞	地元	2019年8月18日	デーリー東北	夏まつり花火大会
31	新聞	地元	2019年8月21日	東奥日報	稲生川灯ろう流し
32	新聞	地元	2019年8月26日	デーリー東北	観光型自販機
33	新聞	地元	2019年8月26日	東奥日報	観光型自販機
34	新聞	地元	2019年8月28日	東奥日報	十和田市写真コンテスト作品募集
35	新聞	地元	2019年8月30日	東奥日報	酸ヶ湯グランピング
36	新聞	地元	2019年9月2日	東奥日報	十和田秋まつりあけぼの祭典委
37	テレビ	地元	2019年9月4日	東奥日報	星野リゾートインターシップ
38	新聞	地元	2019年9月5日	河北新報	星野リゾートインターシップ
39	テレビ	地元	2019年9月6日	A T V	「とわだばこ」からのストリートピアノ
40	新聞	地元	2019年9月7日	東奥日報	十和田市秋まつり
41	新聞	地元	2019年9月8日	東奥日報	十和田市秋まつり
42	新聞	地元	2019年9月11日	東奥日報	十和田市秋まつり
43	新聞	地元	2019年10月9日	東奥日報	青森県・津軽海峡周遊観光セミナー
44	新聞	地元	2019年10月26日	デーリー東北	とわだ旅クーポン
45	新聞	地元	2019年11月10日	デーリー東北	環境保全会議（十和田湖）
46	新聞	地元	2019年11月12日	東奥日報	E-bike試乗会
47	新聞	地元	2019年11月12日	デーリー東北	E-bike試乗会
48	新聞	地元	2019年12月22日	デーリー東北	M a a S セミナー
49	新聞	地元	2020年1月14日	デーリー東北	十和田市写真コンテスト表彰式・作品展
50	新聞	地元	2020年1月15日	東奥日報	日本版DMO登録
51	新聞	地元	2020年1月15日	デーリー東北	日本版DMO登録
52	新聞	地元	2020年1月20日	デーリー東北	十和田湖冬物語2020
53	新聞	地元	2020年1月24日	東奥日報	DMO登録認証交付
54	新聞	地元	2020年2月7日	東京中日スポーツ	氷瀑ツアー
55	新聞	地元	2020年2月20日	デーリー東北	V I S I T はちのへ視察対応
56	広報	地元	2020年3月1日	広報とわだ	十和田奥入瀬観光機構の取り組み紹介
57	新聞	地元	2020年3月10日	東奥日報	十和田湖の四季写真コンテスト
58	新聞	地元	2020年3月10日	デーリー東北	十和田湖冬物語来場者数
59	新聞	地元	2020年3月20日	県南新聞	とわだ旅向上座談会（まちなか）
60	新聞	地元	2020年3月28日	デーリー東北	奥入瀬溪流温泉アーチデザイン

⑤ J N T O（日本政府観光局）、東北観光推進機構、青森県、青森県観光連盟等が主催する商談会への積極的な参加

◆青森県・津軽海峡周遊観光セミナー

新幹線で結ばれた青森県と北海道南地域への首都圏からの誘客を促進することを目的とした商談会およびセミナーに参加し、首都圏旅行会社に体験素材や冬季イベント等をセールスした。

時 期：令和元年 10 月 8 日（土）

場 所：ホテルメトロポリタン（池袋）



◆青森県教育旅行商談会

東北観光推進機構が主催した、関東地区旅行会社若手職員を対象とした現地研修と併催された教育旅行商談会に参加した。

時 期：令和元年 8 月 27 日（火）～30 日（金）

場 所：ホテルアップルランド（平川市）

◆北海道教育旅行キャラバン

青森県観光連盟や青森県内観光施設などとともに、北海道・道央地区の旅行会社や学校を訪問するキャラバンに参加した。

・道央地区

時 期：令和元年 8 月 27 日（火）～30 日（金）

場 所：北海道札幌市、苫小牧市、旭川市の旅行会社および中学校

・道南地区

時 期：令和元年 10 月 1 日（火）～2 日（水）

場 所：函館市の旅行会社および小学校

⑥ 十和田奥入瀬 PR 半纏制作

十和田奥入瀬地域を P R するための半纏を制作した。商談会やイベント等での着用や地域事業者や団体への貸し出しも行っている。

⑦ 十和田市写真コンテスト

十和田市の四季・行祭事等をテーマにした写真コンテストを開催した。応募点数は 151 点。
十和田市出身の写真家・和田光弘さんの審査により受賞作 17 点が選ばれ、十和田市観光物産センターで作品展を開催した。

募集期間：令和元年 8 月 1 日（木）～11 月 30 日（土）

作品展：令和 2 年 1 月 10 日（金）～3 月 31 日（火）

⑧ SNS 限定フォトコンテスト

十和田市の「花火」や「アーツ・トワダ・ウィンターイルミネーション」をテーマに当機構の SNS 上に専用ハッシュタグを入れて応募するフォトコンテストを実施した。

◆「十和田市の花火フォトコンテスト」

期 間：令和元年 8 月 14 日（水）～ 8 月 16 日（金）

◆「アーツトワダイルミ 2019 フォトコンテスト」

期 間：令和元年 12 月 6 日（金）～ 2 月 14 日（金）

⑨ 十和田湖の四季写真コンテスト

「十和田湖周辺の四季折々を表す自然・観光」をテーマにした写真コンテストを実施した。
応募総数は 218 点で、写真家・和田光弘氏の審査で受賞作 19 点選ばれ、十和田ビジターセンターで作品展を開催した。

募集期間：令和元年 9 月～令和 2 年 1 月 5 日（日）

作品展：令和 2 年 2 月 22 日（土）～3 月 29 日（日）



(3) 観光開発事業 戦略 1・2・5

単に地域資源を活用した着地旅行商品開発ではなく、流通を意識し、マーケット別に、Local economic cycle を考えた地域資源の整理を行い、着地型旅行商品開発という視点からの地域ブランドの創出を図る。

① 「十和田湖温泉郷」の名称変更に伴う取組

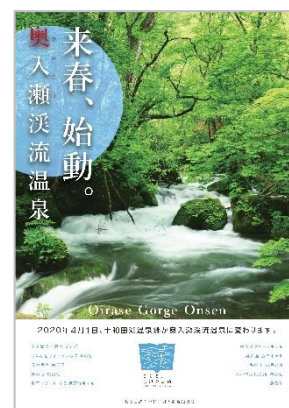
令和2年4月に「十和田湖温泉郷」が「奥入瀬渓流温泉」に名称変更することに伴い、「とわだ旅向上座談会奥入瀬編」の中で事業者の皆様とPR用のポスター作成や新規コンテンツの造成、入口ゲートのデザインやロゴマークの製作に取り組んだ。

◆PR ポスターの作成

目 的：温泉郷を訪れた観光客や観光バス事業者、
旅行事業者向けに名称変更を周知・PRする。

作成枚数：100枚

配布先：奥入瀬エリア内の事業所（宿泊・温泉施設・商店・
ガソリンスタンド等）、官公庁など



◆新規コンテンツ

・奥入瀬コケ弁当

奥入瀬エリアの宿泊施設を利用した観光客等が、散策中にピクニック感覚で手軽に食べることができるランチボックスを企画した。※令和2年4月より販売開始。

・その他

八甲田～奥入瀬エリアを周遊・滞在してもらう仕組みづくりとして、エリア内の温泉施設と連携した湯めぐり企画を検討。引き続き地域事業者・地域住民と検討を重ねていく。

【座談会での議論の様子】



【試作した奥入瀬コケ弁当】



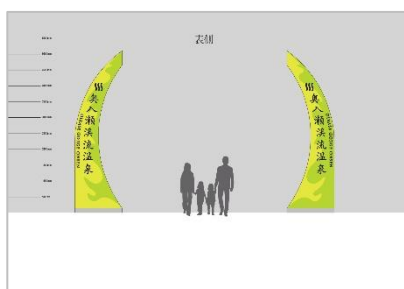
◆入口ゲートデザイン及びロゴマーク作成

- ・入口ゲートは作成したデザイン案をもとに十和田市が令和元年度中に改修を行った。
- ・ロゴマークについては、十和田奥入瀬観光機構が企画・実施する奥入瀬渓流温泉関連のコンテンツや印刷物等で使用していく。

【入口ゲート表側】

【入口ゲート裏側】

【ロゴマーク】



② ストリート・アート・ピアノの設置

中心商店街への回遊性を高めるため、当機構のある十和田市観光物産センター前にストリート・アート・ピアノを設置した。このピアノは、廃校のピアノを活用。十和田市在住のイラストレーターの安斉将さんがアートディレクターを務め、カトリック幼稚園児と共にデザインを完成させた。大変な評判を呼び、毎日演奏する方々が絶えず、新しい人流の創造に繋がった。



③ 各種マップ類（「十和田バラ焼きマップ」、「酒場放浪」マップ、「とわだ旅まっぶ」）の制作・配布による市街地回遊策

◆十和田市のB級グルメ「十和田バラ焼き」を提供する飲食店を紹介（48店舗）する「十和田バラ焼きマップ」を制作した。また、十和田の居酒屋・スナック・BARを紹介（216店舗）する「とわだ酒場放浪」を制作し、主に市街地のホテルで配布している。

【十和田バラ焼きマップ】

【とわだ酒場放浪】



- ◆十和田の観光スポットやランチスポットを地図上で紹介する「とわだ旅まっぷ」を制作し、掲載店舗及び市内の宿泊施設等で配布している。

【とわだ旅マップ】



- ◆JR バス東北「冬のおいらせ号」運行期間に十和田湖周辺の冬季情報を乗客に周知することを目的とし、十和田市観光ガイド冊子「とわだ旅」の別編として制作。JR バス車内ほか、市内の観光施設や十和田湖冬物語会場にて配布した。

【とわだ旅～冬の十和田湖編】

配布期間：令和2年1月16日（木）
～1月24日（月）



④ とわだ旅クーポン、とわだ旅十和田湖編

観光客に周遊を促すことを目的に市内の観光施設や店舗等の情報・特典・割引を掲載したクーポンを制作し、まちなかの起点となる十和田市観光物産センターで配布した。

【とわだ旅クーポン】

配布期間：令和元年10月25日（金）
～3月31日（火）

参加事業者数：32件



⑤ フードツーリズム

旅行会社協力のもとに野菜ソムリエプロの中村陵子さんと十和田の秋の恵みを味わう募集型企画旅行「十和田食材の魅力を発見する旅」を造成したが、集客に至らなかった。

⑥ 伝統芸能とパワースポットモニターツアー

むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成事業を活用し実施。この事業は平成29年から始まる3ケ年計画の最終年にあたり、十和田湖のアクティビティ体験や食を堪能するモニターツアーを実施した。

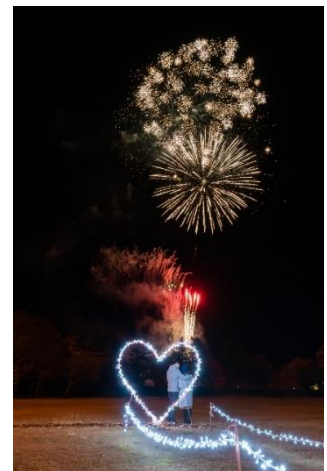
- ・宿泊施設での伝統芸能披露：年5回（紅葉シーズンに実施）
- ・各地域の伝統芸能後継者育成体験教室：年40回
- ・モニターツアー：令和元年9月15日（土）～16日（日）、参加人数：20名

⑦ 季さんプロポーズ大作戦（十和田湖畔スペシャルプラン）

台湾在住の方（季さん）から「8年お付き合いしている彼女に十和田湖畔でプロポーズをしたい」と依頼を受け、十和田湖畔の新たな観光コンテンツとするため、地域事業者にご協力いただき、湖畔地域の方々と連携しプロポーズプランを制作。プロポーズは見事成功し、記念の花火を打ち上げた。

時 期：令和元年10月27日（日）

場 所：十和田湖湖畔休屋多目的広場



⑧ ご当地ラッピング自販機の設置

地域の観光資源や物産品のPRの一環として観光素材をラッピングした自販機を設置し、地域のPRの他、地元ならではの飲料水や北東北限定の商品を販売。売上の一部は地域の観光振興に関する事業に活用した。

設置日：令和元年8月21日（水）

場 所：AST 十和田市観光物産センター前



⑨ e-dike 試乗会

新たなアクティビティを検討するため、株式会社ヤマップの提案・協力の下、電動アシスト付きスポーツバイク“e-bike”の試乗会を令和元年 11 月 11 日（月）に実施した。地元事業者と観光関係者に声を掛け、十和田湖観光交流センターぶらっと前の駅前広場、瞰湖台にて試乗を実施。また、翌日に発荷峠にてテスト走行を行った。



⑩ 旅行サービス手配業の取得

令和元年 11 月 19 日より、旅行サービス手配業（通称：ランドオペレーター）の業務を開始した。

<主な業務>

旅行会社の依頼を受けて域内の旅行客受入機関（タクシー、バス、鉄道、飛行機等の運輸機関、旅館、ホテル、民宿等の宿泊施設、観劇等観光入場施設、土産品店等）や人的サービス等（有償で通訳案内や地域ガイドをする者）の予約・手配を行う。

（４）受入体制整備・インバウンド対策事業 **戦略３・６**

地域観光資源の整理と並行し、地域の人と観光客との情報交換・交流の場を積極的に設ける。また、国の事業等も活用した受入体制整備・インバウンド対策を行う。

① 交通部会と連携した２次交通整備・・・鳶沼渋滞対策

十和田湖周辺交通渋滞対策協議会として、秋季における鳶沼周辺の交通渋滞の緩和を図るために、交通規制及び代替交通を含めた交通渋滞対策を実施した。

実施日時：令和元年 10 月 22 日（木）～25（日）の４日間 早朝４時～８時

運行台数：４５本、利用者：４９６人



② 「とわだ旅向上座談会」の開催

地域事業者や住民とともに、観光資源の掘り起こしや磨き上げを目的に、街なか・奥入瀬・十和田湖の各エリアで定期的に意見交換会を開催した。

③ プチインバウンドセミナー等の実施

プチインバウンドセミナーを開催し、旅行業界のトレンドなどについて情報を共有した。

時 期：平成31年4月19日（金）

場 所：14-54

講 師：小野田理事長、阿部ゼネラルプロデューサー

④ 口コミセミナー

東北観光推進機構の平山美紗さんを講師に迎え、トリップアドバイザーを活用した情報発信等の基礎知識を解説いただいた他、今すぐ取り組める口コミ対応策を、Tohoku Your Partnersの小比類巻香さんに事例を交えながら解説いただいた。

時 期：令和元年11月26日（火）

場 所：市民交流プラザ「トワール」キッチンスタジオ

⑤ ハラル対応セミナー

岩手県北自動車グループ インバウンド室長の大畠孝志氏を講師に迎え、宗教や思想上の理由で食事に制限があるお客様への対応について、実際に現場で経験した事例を交えながら解説いただいた。

時 期：令和元年12月17日（火）

場 所：十和田市民図書館



⑥ 十和田奥入瀬観光セミナー「MaaS がもたらす観光変革」

WILLER 株式会社取締役の宿谷勝士氏を講師に迎え、MaaSの基礎的な考え方や北海道・アジアなどでの展開事例を学んだ。

時 期：令和元年12月20日（金）

場 所：十和田市民文化センター

内 容：①「観光による地方創生に必要なもの」小野田理事長

②「"誰もがどこへでも行きたい時に行ける"を実現する観光 MaaS」宿谷勝士氏



⑦ F A Mトリップ等対応

海外からの観光客誘客促進のため、青森県や東北観光推進機構、観光庁が主催するファミツアーの対応にあたった。

◆ “自籠岩”フォレストアドベンチャー視察同行

時 期：平成31年4月8日(月)

場 所：自籠岩

◆ 台湾 高豊旅行社による自然系アクティビティに関するF A Mトリップ

時 期：令和元年6月30日(日)～7月2日(火)

場 所：十和田湖、奥入瀬溪流（宿泊施設・キャンプ場視察、バイク、ハイキング、サップ体験）



◆ 台湾市場におけるF I T促進を目的としたプロモーション事業

時 期：令和元年7月13日(土)

場 所：十和田湖、奥入瀬溪流、市街地（カヌー体験、溪流散策、ひょうたんランプ工房視察、現代美術館鑑賞）、市街地散策（官庁街通り+有名建築家建造物）など



◆ 中国旅行エージェントF A M（青森県誘客促進事業）

時 期：6月5日(水)

場 所：市街地、奥入瀬溪流、十和田湖

◆ マラソンを契機とした中国からの誘客促進事業

時 期：令和元年7月7日(日)

場 所：十和田湖（十和田湖マラソン）

◆タイを拠点とした東南アジア富裕層の誘客拡大と受入基盤の強化」事業

時 期：令和元年 8 月 2 日

場 所：十和田湖（十和田湖観光交流センター「ぷらっと」）、奥入瀬溪流

◆大連市等の旅行会社を対象とした F A M ツアー

時 期：令和元年 9 月 10 日（火）

場 所：石ヶ戸休憩所

◆香港メディア FAM ツアー

時 期：令和元年 10 月 7 日（月）～ 8 日（火）

場 所：奥入瀬溪流、十和田湖、市街地



◆VJTM に合わせた各国の旅行会社向け視察ツアー

時 期：令和元年 10 月 29 日（火）

場 所：十和田湖、奥入瀬溪流、奥入瀬溪流館、現代美術館

◆ロイヤルカリビアン上海発クルーズ配船権限者の招聘事業

時 期：令和元年 10 月 30 日（水）

場 所：奥入瀬溪流、十和田湖



◆台湾訪日教育旅行誘致事業

時 期：令和元年 10 月 31 日（木）

場 所：奥入瀬溪流、十和田湖

◆フランスの旅行会社招聘事業

時 期：令和元年 10 月 31 日（木）

場 所：奥入瀬溪流、十和田湖

◆JAL 香港支店と連携した香港の旅行会社 FAM ツアー

時 期：令和元年 11 月 12 日（火）

場 所：奥入瀬溪流（奥入瀬溪流ホテル）、十和田湖



◆2019 年度ドイツ・イタリア・スペインにおける東北認知度向上事業

時 期：令和元年 11 月 16 日（土）

場 所：奥入瀬溪流

◆「新しい東北」タイエージェント FAM ツアー

時 期：令和元年 12 月 7 日（土）

場 所：奥入瀬溪流、現代美術館、農園カフェ日々木、匠工房

◆台湾インフルエンサー視察ツアー

時 期：令和2年2月10日（月）

場 所：奥入瀬モスボール工房



◆イギリス・フランスプレスツアー

時 期：令和2年2月15日（土）、19日（水）

場 所：現代美術館、十和田湖冬物語、氷瀑ツアー、
十和田湖カヌー、匠工房

⑧ インバウンド誘客促進のための商談会への参加

◆VJTM 商談会

海外の訪日旅行取扱旅行会社等と日本全国の観光関係事業者が一堂に会し、様々なインバウンド関連ビジネスを創出する商談会。当機構は十和田八幡平国立公園として十和田八幡平国立公園管理事務所と共に6か国11社の旅行会社と商談を行った。

主 催：日本政府観光局

時 期：令和元年10月25日（金）

場 所：インテックス大阪（大阪府大阪市）

◆日本東北遊楽日2019（旅行博）および東北プロモーション in 台湾2019（商談会）

台湾からの誘客に取り組み、十和田市を含む、東北地域への訪日旅行者拡大を一層盛り上げるため、台湾・台北市で開催された「日本東北遊楽日2019」及び「東北プロモーション in 台湾2019」に出展した。

主 催：日本政府観光局（JNTO）及び日本東北六県感謝祭実行委員会

「日本東北遊楽日2019」

時 期：令和元年11月16日（土）～17日（日）

場 所：台北 世界貿易センター 3号館 1フロア

「東北プロモーション in 台湾2019」

時 期：令和元年11月19日（火）

場 所：国賓大飯店



◆北東北三県・北海道ソウル事務所共同 韓国旅行エージェント商談会

十和田市への誘客を図るため、韓国で行われた商談会へ参加。十和田市の観光コンテンツなどを紹介し、日韓の現状からこれからの日本への旅行の動きなどをヒヤリングした。

主 催：北東北三県・北海道ソウル事務所

時 期：令和元年11月19日（火）

場 所：ロッテホテルソウル（サファイアボールルーム）



◆スペイン・マドリード FITUR2020（旅行博）

スペイン・マドリードで開催されたFITUR2020のJNTOブースにおいて、東北の伝承文化である、遠野の昔語り、山形の蓼細工、男鹿のなまはげ細工、福島のかげし、十和田市の板ノ沢地区に伝わる「虫送り」を、新しい体験コンテンツとしてスペインマーケットに提案した。また、現地旅行会社を訪問し、東北コンテンツのセールス活動を行った。

主 催：日本政府観光局

時 期：令和2年1月21日（火）～22日（水）

場 所：マドリード



「FITUR2020 出展」

・時 期：令和2年1月22日（水）～1月26日（日）

・場 所：IFEMA Feria de Madrid



2 特定重点業務実施事業 **戦略1・2・3**

奥入瀬溪流の氷瀑をはじめとした新たなコンテンツ開発による冬季観光の充実や、満喫プロジェクトに基づく国立公園のブランド化を推進することにより、冬季需要を創造し、通年型観光を実現して観光客の受入体制を強化していく。

① 冬季観光充実関係事業 「氷瀑ツアー」

「奥入瀬溪流氷瀑ツアー」を実施し、国内外の観光客が惹きつける魅力ある旅行商品として企画・運営業務を受託し、冬季の観光振興による地域経済の活性化を図った。

時 期：2020年1月10日（金）～3月15日（日）

計 画：4種66日129便

実 績：4種58日103便 825名



② パワースポットマップ

十和田湖の開運スポットによる周遊促進としての「開運+(プラス)」の改訂及び従来の日本語版・英語版に加え新たに中国語2言語（簡体字・繁体字）の発行を行い、配布した。

掲載内容の整理に加え、マップ内に各開運ポイントの一言解説の追加、十和田湖全体マップの追加により、より開運スポット巡りに特化したパンフレットへと改訂し、発信した。

【開運+(プラス)】



③ 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト関係事業

◆多言語案内表示業務

奥入瀬渓流内における自然についての解説案内板等を QR コードを活用して多言語化し、外国人観光客の満足度の向上を図るとともに、滞在時間の拡大を目的として実施した。

看板数：18ヶ所



3 観光関連施設指定管理運営業務

十和田市観光物産交流施設指定管理業務

◆市街地の情報発信拠点

国内外の観光客及び市民に対し、情報発信拠点としてのワンストップサービスを提供した。

◆十和田市の特産品販売 P R センター

地域の特産品や県内のお土産品を取り揃え、紹介・販売した。またクレジットや電子マネー決済端末を導入し、来館者の利便性の向上に努めた。

◆賑わいを創出し、経済効果を波及させる拠点となる施設

十和田市観光物産センターを始め A S T の賑わいを創出するため A S T テナント会と連携し、集客を目的とした各種イベントを実施した。

「2019 A S T ビアガーデン」

時 期：令和元年 8 月 6 日（火）～ 8 日（木）



「ASTイルミネーション 2020」

時 期：令和元年11月18日（月）～令和2年2月28日（金）



十和田市観光交流センター（ぶらっと）指定管理業務

◆十和田湖の情報発信拠点

十和田湖畔の観光拠点として、外国人観光客向けに英語、中国語、韓国語が話せるスタッフを配置し、多言語による案内業務に取り組んだ。

◆賑わいを創出し、経済効果を波及させる拠点となる施設

域内での長期時間滞在を促し、旅行消費額増加を図るため、体験コンテンツやモデルコースプランの紹介など行った。

◆冬季観光の充実拠点

冬季観光の充実を図るため、冬季においても施設を開館し観光客の受け入れを行った。十和田湖冬物語や奥入瀬氷瀑ツアー開催にあわせて作成された冊子「とわだ旅-冬の十和田湖編」を活用し、十和田湖の冬の魅力を観光客に伝えることに努めた。



4. イベント関係事業

地域のためのイベントか観光客のためのイベントかを明確に位置付け、観光客の落ち込む時期にイベントを実施することにより、年間の観光客拡大と人流創造戦略を意識して企画・運営を行う。

① 十和田市春まつり（平成31年4月20日～5月5日）

十和田市、十和田商工会議所とともに主催した。

十和田市及び十和田商工会議所（運営事務局）、太素顕彰会と4者共催で、稲生川上水161年十和田市春まつりを実施した。中央公園や官庁街通りの夜桜のライトアップを行った他、さくら観光案内所を設け、観光客や官庁街通りを訪れた方にイベント情報の提供や観光案内を行った。



② 十和田湖湖水まつり（令和元年7月14日～15日）

実行委員会事務局として、夏の十和田湖畔地区の賑わい創出に取り組んだ。

③ 十和田湖ウォーク（令和元年7月21日）

平成31年4月10日(水)実行委員会総会より実行委員会事務局を引き継ぎ、十和田湖マラソン（実行委員会主催）、十和田湖ヒルクライム（実行委員会主催）と併せ、十和田湖畔スポーツツーリズムの振興を目的に開催した。

④ 十和田市夏まつり第62回花火大会（令和元年8月14日）

十和田市及び十和田商工会議所と3者共催で市民や帰省客の夏の風物詩として親しまれる十和田市夏まつり第62回花火大会を開催。観覧場所である陸上競技場には協賛企業の招待席や無料の観覧席の他、今回初の試みとして有料観覧シートの設け、9席を販売した。

- ⑤ 十和田市秋まつり（令和元年 9 月 6 日～9 日）
十和田市、十和田商工会議所とともに主催した。



- ⑥ 奥入瀬渓流エコロードフェスタ（令和元年 10 月 26 日～27 日）
十和田奥入瀬地域の紅葉シーズンは観光客が最大になり、交通渋滞や混雑が発生し課題となっている。当機構は実行委員会事務局として、紅葉ピーク時における奥入瀬渓流の利用適正化ならびに十和田湖への誘客促進に資する事業に取り組んだ。



- ⑦ 十和田湖冬物語（令和 2 年 1 月 24 日～2 月 24 日）
実行委員会事務局として、十和田湖畔の冬季観光振興と誘客促進する事業を行った。特に、奥入瀬氷瀑ツアーとの連動により、十和田湖・奥入瀬地域を面的に売り出した。



5. 物産関係事業 **戦略5**

① 十和田市観光物産センターにおける物産品のPR・販売促進

地域産品のPRセンターとして、会員事業者の物産品のPR・販売活動を行った。なお、物産品のラインナップに際して、物産部会、飲食部会や十和田市（とわだ産品販売戦略課）、地域の野菜ソムリエ等と連携を図った。

② イオンスーパーセンター十和田店における地場産品出展業務

帳合業務を通じ、地場産品の販売拡充を行う。八戸に向かうルート上にあることや、訪日観光客に人気のあるイオンの立ち寄り場所であることも意識する。

<イオン帳合業務>

- ・出店事業者数：31 事業所（機構の会員）
- ・イオンスーパーセンター十和田店で開催のイベントやお知らせの案内。

<第40回十和田市物産まつり>

- ・期間：令和元年8月5日（月）～16日（金）12日間
- ・出店事業者数：8 事業所

③ 物産品の普及宣伝、推奨品の指定

物産展の開催や、イベントへの出展により、十和田市の物産を広くPRし、販売を行う。また、推奨品を審査・指定し、観光客へ十和田市ならではの土産の購入を促す。

④ 物産展、商談会などイベントへの案内や参加

- ・スーパーマーケットトレードショーにて「青森の正直」を活用したアピール方法などを、61事業所に案内した。
- ・機構が主となる物産展はないが、つがる市で行われた10市大祭典に参加。

●あおり10市大祭典による地産品販売

あおり10市大祭典 in つがるにおいて、会員事業者の物産品のPR活動や試食販売を実施した。

時 期：令和元年9月21日（土）・22日（日）

場 所：つがる市



●青森とわだ産直市

地域活性化と交流人口拡大を推進する「地域再発見プロジェクト」の一環として、大宮駅で開催した「青森とわだ産直市（主催：東日本旅客鉄道株式会社）」において、十和田市の観光PR部門を担当し、十和田市を中心とした青森県内のおすすめイベントや奥入瀬渓流水瀑ツアーのPRを行った。

時 期：令和元年 10 月 21 日（月）～25 日（金）の 5 日間

場 所：大宮駅西口イベントスペース



⑤ 十和田市の特産品を販売し、県内外からの来訪客に特産品の魅力をPRした。

・北里大学学園祭での物産販売

日程：令和元年 10 月 26 日（土）、27（日）、11 月 2 日（土）、3 日（日）

場所：北里大学白金キャンパス・北里大学相模原キャンパス

北里大学の2か所のキャンパスにて、十和田市の特産品を委託販売すると同時に観光パンフレットの配布をして、十和田の魅力PRと誘客に努めた。

⑥ 物産品の普及宣伝

・SNSを活用し、新商品やイベント情報などを宣伝。

⑦ 推奨品審査会

・必要性の有無について部会で検討した。

6. 人材育成事業

① 三本木農業高校「観光甲子園」の取組を支援

三本木農業高校の生徒がチャレンジする「観光甲子園」の取組について、観光資源のレクチャーや関係団体・事業者との調整等の支援を行った。

・結 果：インバウンド部門予選通過（５０チーム）

② ふるさとガイドネットワークとの連携

本市の観光に寄与するガイド団体の取組状況や課題等について情報交換を行い、各団体の活動活性化を図った。また令和元年度より(一社)十和田奥入瀬観光機構で事務局を担うこととなった。

③ 【若手観光ガイド育成事業】地元高校ガイドと“魅力満開の十和田まちあるき”

時 期：事前研修：平成３１年４月１２日（金）

本 番：平成３１年４月２０日（土）

場 所：大清水神社、太素塚、市民交流プラザ「トワーレ」、官庁街通り、商店街、十和田市観光物産センター

参加人数：申込者 11 名、JR スタッフ 2 名、エボック 2 名、十和田西高ガイド 9 名（3 年生 6 名、2 年生 3 名）、

十和田西高教員 3 名、TMG ガイド 2 名、十和田奥入瀬観光機構 2 名

内 容：JR 東日本が実施しているハイキング・ウォーキングイベント「駅からハイキング」にエントリーし、『十和田市春まつり』開催期間中の４月２０日（土）に、大清水神社から、商店街（奥州街道）や官庁街通りを巡るコースを設定した。とわだおもてなしガールズ（TMG）にガイドの補助の協力をいただき、十和田西高等学校の観光科の学生がボランティアガイドとしてお客様を案内した。



7. 交流事業

① 交流事業の推進

岩手県花巻市、埼玉県鶴ヶ島市、高知県土佐町と交流並びに連携を行った。

【岩手県花巻市】

令和元年 9 月 13 日(金)～9 月 15 日 (日)

花巻まつり特産品フェアへ出店し、十和田市を P R するとともに交流を図った。

令和 2 年 2 月 11 日(火)

「第 62 回元祖わんこそば全日本大会」へ応援隊として参加した。

【埼玉県鶴ヶ島市】

鶴ヶ島市保養地指定事業としてホテル、旅館等の契約保養施設の利用者に助成を行った。

【高知県土佐町（姉妹都市）】

令和元年 11 月 10 日 (日)

「第 35 回さめうらの郷湖畔マラソン大会」へ景品を提供した。

② 関係団体との相互交流

北里大学生との交流会、十和田西高校や三本木農業高校などとの連携、各種観光関係団体との相互協力・支援を行った。

8. その他の事業

- ① 十和田湖活性化、奥入瀬溪流の利活用や中心市街地活性化等に関する会議等への参画
- ② セーフコミュニティとわだ作業部会への参画
- ③ 十和田市セーフコミュニティ作業部会への参画
- ④ 十和田湖 PWC 安全啓発パトロール活動への参画

